



住民への巡回診療を行う救護班

医療救護班を派遣

平成24年8月13日深夜から14日未明にかけて京都府南部で集中的に降り続いた豪雨により、宇治市を中心に発生した災害に対して、支部職員をはじめ、京都第一赤十字病院、京都第二赤十字病院の医療救護班を派遣し、住民への巡回診療を行いました。

関係機関と情報共有

被災地では現地の医療機関が先に活動しており、消防等関係機関からの情報提供をもとに、赤十字救護班の活動方針を決定するなどの現地調整が行われました。



地元医療関係者と医療ニーズ調整



集まったボランティアへ活動計画を説明

レスキューチェーン京都が活躍

宇治市災害対策本部において、京都第一赤十字病院の医師が中心となって医療コーディネート等を行ったほか、宇治市災害ボランティアセンターにおいては、赤十字奉仕団である赤十字レスキューチェーン京都のボランティア延べ63名が活動を行いました。